「特別な誰か」の話じゃない

～私たちと性暴力のリアル～

保健医療学部　看護学科　服部律子（日本版性暴力対応看護師SANE-J）

これってどう思う？

下にあるシールを貼ってあなたの意見を投票してみて！

事例１ サークルの飲み会で、酔った勢いで先輩に強引に抱きつかれてキスされそうになった。

OK	モヤモヤ・違和感	完全アウト

事例２ バイト先のみんなで遊びに行った帰り、いつもいろいろ教えてくれるバイト先の先輩に２人きりで誘われ、乗り気じゃなかったけど「断ったら雰囲気が悪くなるかも・・・バイト先でまた顔合わせるし・・・」と思って断れずにいたら、そのまま身体を触られた。

OK	モヤモヤ・違和感	完全アウト

事例３ 付き合ってるから、一度OKしていたら、いつでもスキンシップやセックスしていい。

OK	モヤモヤ・違和感	完全アウト

事例４ 付き合ってるカノジョ/カレシの個人的な写真や動画（肌を露出しているものやスキンシップしてる画像など）を友達や部活やサークルの仲間に見せたり送ったりした。

OK	モヤモヤ・違和感	完全アウト

解説は裏面へ

事例1　相手が同意していないのに、体に触ったり、キスするなど性的な行為をすることは性暴力

相手がアルコールなどの影響で正常な判断ができない状態で「OK」と言っても、それは無効です。
もちろん、抱きついたりしたほうの「酔っていたから」は言い訳になりません。

事例2　「嫌だと言わなかった」（抵抗しなかった）＝同意ではない

加害者の立場（先輩、指導者、上司、お客など）から断れない関係にあることがあります。大勢で盛り上がっている時など「断ったらその場の雰囲気を壊して気まずくなるかも」と断れない場合もあります。
また、びっくりして「固まってしまった」場合も断ることができません。
「嫌だと言えない/断れない」状況を利用して行われた行為は性暴力です。
「嫌だと言わなかったからOKした」ではありません。

事例3　付き合っている相手でも、毎回、同意を確認する

昨日OKでも、今日もOKとは限りません。人間は心や体のコンディションがあります。「今」OKかを確認する必要があります。
「前もOKだったから大丈夫」と決めつけ、自分の気持ちだけで行動し、相手を従わせることが「暴力」です。

事例4　勝手に写真を見せたり、SNSにアップすることはプライバシーの侵害

「リベンジポルノ」と言われるような、別れた相手の性的な写真をSNSに載せるだけでなく、肌の露出の多い写真や性的な写真を勝手に他の人に見せたりSNSにアップすることはプライバシーの侵害です。
一度SNSにアップされた写真はその人の端末から削除しても、他の人の端末で保存されてそれがネット上に拡散されたりと、深刻な被害をもたらします。

「性暴力」は「魂の殺人」とも言われる深刻な人権侵害

私たちのからだと心は私たち自身のものです。性犯罪として法律で裁かれていなくても、望まない性的な言動は全て「性暴力（性被害）」です。
女性だけが被害に遭うわけではなく、男性も被害に遭っています。
また、異性間だけでなく、同性間でも生じます。



WHO(世界保健機関)は「世界の暴力と健康レポート」(2002)で、性暴力被害とは、「本人のセクシュアリティに対する、強制や威嚇によるあらゆる性的行為や、性的行動への衝動で、被害者とどのような関係性であっても、自宅や職場に限らずどのような場所であっても起こる」とし、「最も深刻な人権侵害」であると述べています。

レイプだけが性暴力被害ではない

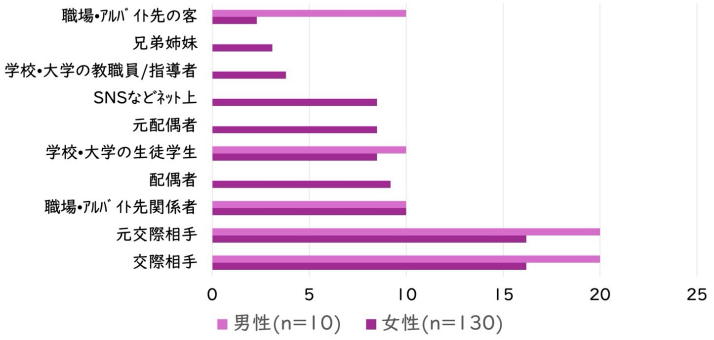
レイプだけでなく、望まない性的な言動は全て「性暴力（性被害）」です。
性交以外にも、身体を触られる、キスや性行為をさせられる、裸や性器をみられる/見せられる盗撮される、性的な画像を見せられるなど、リベンジポルノ、などさまざまなものが含まれます。
避妊に協力しないことも性暴力です。

被害者は抵抗できない

性暴力が被害者にもたらす心理的・生理的影響を明らかにしたMasonとLodrick (2013)は、被害者は、「逃げる」、反撃したり消極的に「イヤ」だという「闘争的態度」の他に、相手の「友好的」な反応を引き出して被害を回避しようとしたり、「フリーズ」したり、最悪の被害を回避するために「迎合」するなどの反応を示すと述べています。
アルコールや薬物の影響で抵抗できない状態になっている場合もあります。
「本当に嫌なら抵抗するはず」は誤った理解であることが明らかになっています。

あなたも無意識に「加害者」になっていませんか

内閣府が同意のない性交等をされた経験のある人に相手との関係を聞いた結果です。
身近な人や顔見知りからの被害が多いことがわかります。「見知らぬ人」は10位にも入っていません。



内閣府「男女間における暴力に関する調査報告書（概要版）」（令和５年度）より作成

性暴力被害の影響は大きい

WHOは次のような影響があると指摘しています。

- 妊娠、性感染症、人工妊娠中絶
- うつ病やPTSD
- 過剰な性行動をしたり、リスクの高い行動、自殺
- 被害によって妊娠した子どもの殺害

人間関係がうまく結べなくなったり、電車や公共交通機関に乗れないなどの影響が出たり、社会生活が困難になることも報告されており、その影響は深刻です。
その影響は何十年も続くこともあります。

被害者は平気そうに見えることもある

被害者の心理と行動は多様です。笑う、饒舌になるなど、一見、なんともなかったかのうように見えることもあり、普通に生活できているように見えます。
被害者は「被害体験をなかったこと」にしようとしたり、「自分は汚れている」と感じたり、感覚が鈍くなり、何をしていても現実感がない、それまで楽しかった活動への興味がなくなるなど反応もあります。
症状には個人差があり、PTSD(心的外傷後ストレス症）を発症する頻度も極めて高いです。

被害者の多くは誰にも相談していない

内閣府の「男女間における暴力に関する調査」(令和5年度)では、女性の約55%、男性の約60%が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答しています。



Mason, F., & Lodrick, Z. (2013).『Psychological consequences of sexual assault』*Best Practice & Research Clinical Obstetrics & Gynaecology*, 27(1), 27-37.

「あなたのからだはあなたのもの、あなたの心はあなたのもの」
被害かどうかわからなくても大丈夫、あなたの「モヤモヤ」を誰かに話してみましょう。
プライバシーは守られます。　匿名でも相談できます。

【全国共通短縮ダイヤル】　#8891
通話料無料で性犯罪性暴力被害者のためのワンストップセンターにつながります
【チャットやメールでの相談】Curetime　https://curetime.jp

学内で相談したいときは、服部まで連絡ください。
r-hattori@naragakuen-u.jp